

# かわいい子には体験を！ ～人生の基盤となる体験活動のススメ～

## エピソード

夏休みが近づいたある日、小学校2年生のタケル君がママに言いました。「コウタ君の家は、夏休みにキャンプに行くんだって。僕も行ってみたい。」

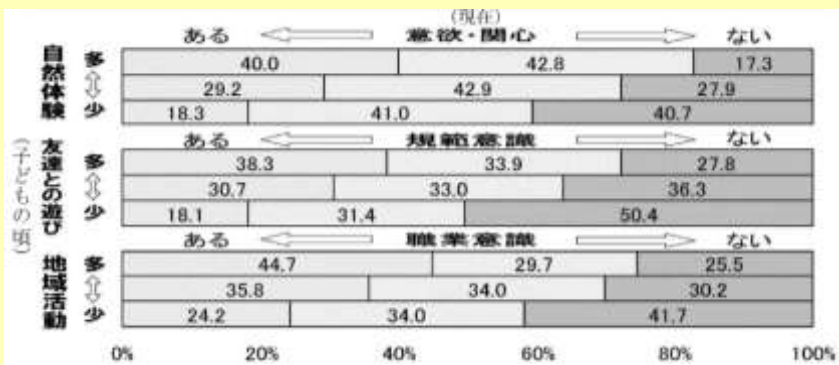
虫が苦手な、学校の野外体験活動にいい思い出がないママは、「パパに聞いてみて。」と冷たい返事。でもパパは乗り気です。「いいね！今度テント買いに行こうか！」幼稚園年長の妹のコウちゃんも「キャンプ行きた〜い！」と大はしゃぎ。パパはママの説得にはいりません。「最近のキャンプ場は設備も整っていて、居心地がいいみたいだよ。一回行ってみようよ！」タケル君も「悪い虫がいたら僕がやっつけるから」と言いだします。

それを聞いてママも、「そうねえ…」と考える気になってきました。

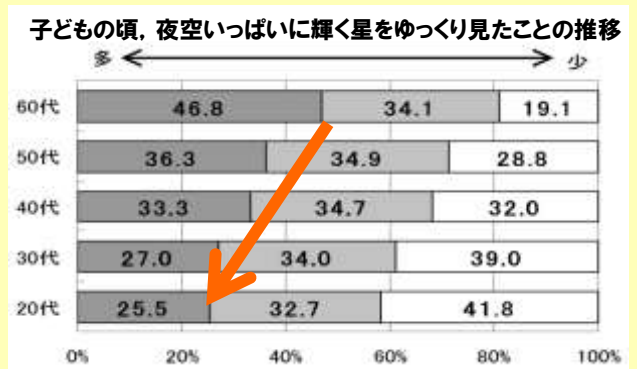
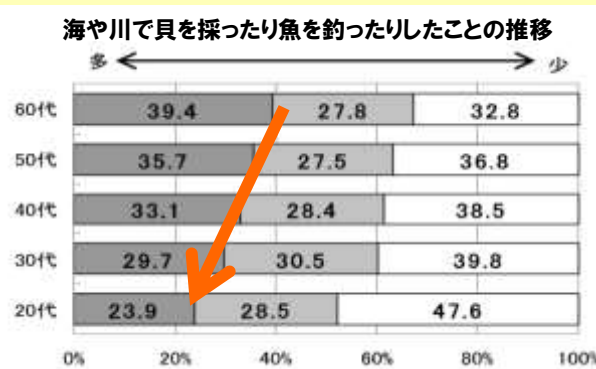


**ワーク1** エピソードを読んで感じたことを書いてみましょう。

**まめ知識①** 子どもの頃の体験が豊かな大人ほど、意欲・関心や規範意識等が高い人が多い。



**まめ知識②** 子どもの頃の自然体験は、若い年代ほど少なくなっている。



■ 出典 独立行政法人青少年教育機構「子どもの体験活動の実態に関する調査」（平成22年）

**ワーク2** お子さんにさせてみたい体験活動を計画してみましょう。

だれが？	いつ？	どんなことを？	そのために
<記入例> 子どもだけ 親と子で 家族みんなで 3世代で …など	○月○日に  夕食の後に 週末に 夏休みに 冬休みに …など	散歩（早朝・夕方・夕食後・ 雨の日など様々なVir.で） 朝日・夕日、星・月を見る。 一緒に料理をつくる 洗車、実家の大掃除 キャンプ、登山 田植えや稲刈り	市の年間主催事業を確かめる。 いつもより少し早めに夕食をとる。 道具を確認する。 観光案内所から登山ルート地図を取り寄せる。 施設の情報を電話やネットで調べる。（備品、空き状況等）

**家庭における体験活動の取組として…**

**1 家族の一員としての役割意識を持たせよう(様々な生活体験の推進)**

(例) 家族の一員としての仕事(風呂掃除等)、年中行事、三世代交流、文化継承、食育 等

**2 子どもたちを外で遊ばせよう(同世代や異世代との交流、身近な自然体験や外遊びの推進)**

(例) 外遊びの奨励、スポーツ・レクリエーション活動の実践、遊ぶ場所・時間の確保 等

**3 子どもの発達段階に応じた体験活動をさせよう(発達段階に応じた自然体験の推進と地域行事への参加)**

(例) 自然体験の推進、体験活動の工夫、青少年社会教育施設の活用、地域や子ども会等の行事 等

■出典 鹿児島県社会教育委員の会議「審議のまとめ」(平成24年3月)



**体験活動オススメ情報 国公立の青少年社会教育施設を活用しよう!!**

鹿児島県内には、自然体験活動のできる国公立の青少年社会教育施設が8つあり、各施設ともそれぞれの特長を生かした主催事業を随時実施しています。(詳しくは、各施設のHP等で)

主催事業なら

**初めてでも安心!!**

テント設営や野外炊飯は、施設職員が指導します。

**視野が広がる!!**

他の家族との異年齢・異業種交流により、仲間も増えます。

**お財布にもやさしい!!**

通常必要な施設使用料と宿泊料は免除です。



でも、人気の事業はすぐいっぱいになるらしいし、事業の開催日と我が家の都合が合わないこともけっこうあるし…。どうしたらいいの？

**大丈夫!!**

5人以上なら、研修団体として施設を利用できます!!  
詳しくは、各施設にお問い合わせください。



**ふりかえり** このプログラムをとおして、どんなことを考えましたか。